4 de Outubro de 1918 No. 57

Noticias do Brazil

大正七年十月四日　金曜日　第五十七號

伯剌西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado No. 89
Caixa Postal H
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ——— 10$000
„ Semestre ——— 5$500
„ Mez ——— 1$000
„ Semana ——— $800

日本人會設立に就て

伯國に在る我が同胞は、近頃漸く日本人會の必要を認め、之が設立を論議討究することゝなつたのは、社會の一進歩として大に慶賀すべきである、更めて云ふまでもなく日本人會の仕事は、公の意味に於て在留同胞の權利を擁護し、幸福を增進するにあるのであるから、如何に平和なる伯國の天地と雖も、既に二萬五千有餘の同胞が在留する今日、茲に統一的代表機關設立の聲の起るは當然で吾輩も可成早く之が實現を望んで止まぬものである。

然しながら日本人會の性質は、在留國の法律及び習慣の許す範圍に於て、吾々同胞の事は吾々にて治むると云ふ、自治にあるのであるから、若し吾々にして自他の自由を尊重する、自治の精神を缺くならば、如何に立派な規則に據つて日本人會を組織するも、うは形式にとゞまつて結局失敗に終らざるを得ない、故に吾輩は日本人會の設立には贊成で、且つ實現の早きを望むものではあるが先づ組織する前に當つて發企者は、廣く同胞有識の士に計ると共に、團體の根本たる自治の了解を得ることが必要であると思ふ。

吾輩の知れる範圍で云ふならば、在外同胞中北米加州に於ける日本人會は、比較的團體の必要條件をヨリ多く具備してゐるのであるが、是とて一朝一夕に成つたものではなく、殆ど二十年の永き星霜を經て漸く近頃見るべきものあるに至つたのである、加州は何人も知るが如く日本人排斥の中心地であつて、最近十五年の間には隔離學校問題、移民入國禁止問題、土地所有禁止問題、借地權制限問題等を始め、苟にも日本人が歐羅巴人と平等に有する權利あらば種々難多な口實の下に、或は奪はれ或は奪はれんとして迫害至らざるなきの理、同胞は憤慨し、奮發し、團結し、自覺して漸く今日の日本人會と云ふ、名實相一致する自治團體を產出せしを思へば、日本人會の事業亦難からずやと、歎息せざるを得ないのである。

然らば日本人會の事業は如何にして斯くも困難であるのであるか、金の爲めか、否。中心人物のなき爲めか、否。勿論會の活動には金も必要であり、人物も必要ではあるが、金と人物とは求むるに其の途を以てすれば、敢て之を得るに困難ならざるも、會を組織する多數同胞の自治的精神の缺乏に至つては、會をして全く立往生せしめざれば止まぬものである。

自治と云へば自分の物は自分で治め、自分等の事は自分等で處理するに云ふに過ぎないのであるが、實は此の自治なるものは、個人的自由思想の發達に俟たねばならぬもので、久しく封建制度の下に壓伏せられた吾々に取つては、是程發揮するに困難なるものはないのである。其の證據には我が邦人の組織せる團體にして、上は帝國議會より下は村會に至るまで、未だ曾て大なる事蹟を擧げたことのないのを見ても明かである。

然しながら過去は咎むるも詮なし吾々にして既に自己の缺點を自覺した以上は、爾今大に奮勵して自治的精神を養成すると共に、之を新たに設立せんとする日本人會の上に試むべきである、現に伯國に在る我が同胞社界に於ては、兒童教育問題、衛生問題、風俗改良問題、土地買入問題、契約問題、排日問題等豫じめ議すべき重要問題が眼前に横はつて、吾々の奮起を俟つてゐるのであるから、吾々は此の際「伯國日本人青年會は主動となり廣く同胞知名の士に計り在留民の中心機關たる日本人會設立に鋭意努力すべき事」と昨年會が議決躍起した機會に乘じ、大に胸襟を披いて小異を捨て大同に就き、而かも「吾々の事は吾々にて爲す」と云ふ自治的精神を心の底より搾り出して、之を日本人會組織の上に放下結實せしむるの如何に緊切なるかを思はざるを得ない、仍て茲に所感の一端を書して、大方諸君の一考を煩はすことにした。

物價調節令

◇奸商征伐の目的なれば生產者は狼狽するに及ばず

諸物價の狂騰は世界を通じて同じ樣に勞働階級を苦しめてゐるのは目下の事實である、圓に三升三合の米を食ひ一錢に二本の燒芋を嚙らねばならぬ日本の下層界も愍然たるものであるが一キロ一ミル四百レースの砂糖を嘗めねばならぬ當州の勞働者も全く憐れである。細民救濟否奸商征伐の一歩として爲政者が頭を惱ましてゐた例の調節令が遲れ馳せながら去月二十八日左表の通り發表された但し是は當市に適合すべき最高小賣相場で期間は本月一日より十五日迄であるから時機に應じて變更自由自在であるらしい。

▲砂糖（一キロに付）

クリスタル上	一、一〇〇
同　中	一、〇〇〇
同　下	九〇〇
レヴンド、クルー	八五〇
マスカーヴォ、クルー	七〇〇

▲精米（一キロに付）

アグリヤ特等	八六〇
同　上	八二〇
同　中	七〇〇
同　下	六二〇
同　劣	五五〇
カテツテエ特等	七八〇
同　上	七四〇
同　中	六四〇
同　下	五五〇
同　劣	四八〇
△ニンニク（百に付）	一、三二〇
リオ、グランデ特等	四四〇
同　エスタード上	四、二五〇
△バニーニヤ（一鑵に付）	一、六五〇
リオ、グランデ、ド、スル印	一、三八〇
エスタード上（一キロに付）	
同　中	
▲馬鈴薯（一キロに付）	三二〇
リオ、グランデ、ド、スル	三四〇
エスタード	
△珈琲（一キロに付）	一、一〇〇
精製上等（粉）	八〇〇
（實）	
△乾肉（一キロに付）	二、二〇〇
マンタス、ゴルダス特等	一、九八〇
マンタス、エ、パートス特等	一、八八〇
マンタス、ゴルダス中	一、七六〇
マンタス、エパートス中	一、三二〇
△削片乾肉	
△生肉（一キロに付）	
牛　上	一、二〇〇
同　中	一、〇〇〇
豚（ロンゴ）	二、〇〇〇
同（並肉）	一、五〇〇
同（鹽肉）	一、三〇〇
小　牛	一、五〇〇
▲木炭（一俵百リットル）	三、五〇〇
▲玉子ギ（エスタード一キロに付）	一、二〇〇
△エスピリット、デ、ヴーニヨ（一瓶に付）	
三十六度	一、〇〇〇
普　通	六〇〇
▲フエジヨン（白一キロに付）	
特　等	四八〇
マンテーガ特等	四六〇
上　等	四六〇
同	四二〇
▲フエージヨン、ムラテーニヨ（乾期一キロ）	
特　等	四〇〇
上	三九〇
並	三九〇
▲フエージヨン、ムラテーニヨ（雨期）	
特　等	二四〇
上	二二〇
並	二〇〇
▲マンデイオーカ粉（一キロに付）	
エスタード特等	四六〇
同　並	四〇〇
同　粗	三六〇
△小麥粉（一キロに付）	
上	七八〇
中	七四〇
▲玉蜀黍粉（一キロに付）	
白又ハ黃	四四〇
△フバー（一キロに付）	
白（ミモーザ）	七〇〇
白又ハ黃精製	二〇〇
粗	一八〇
△ガソリーナ（一鑵に付）	
鑵　共	一七、〇〇〇
鑵　無シ	一六、〇〇〇
△石　油	
一　鑵	一五、〇〇〇
一リットル	一、〇〇〇
一　瓶	七〇〇
▲薪木（一立方メートル）	一〇、〇〇〇
▲マカロン（一キロに付）	
上	九〇〇
中	七〇〇
玉蜀黍（一キロに付）	
カテテエ又は白クリスタル特等	一八〇
アマレーニヨ上	一六〇
アマリーニヨ並又は白特等	一六〇
アマレロン上又は酥達一キロに付）	一六〇
△パン（小店賣又は酥達一キロに付）	
特等粉製	九〇〇
上　粉製	七〇〇
中　粉製	六〇〇
ミスト	五〇〇
△魚（一キロに付）	
上等清魚	一、五〇〇
並　同	一、二〇〇
△燐寸（木製）	
六十本入小箱十個一包	八〇〇
△鹽（內國製一キロに付）	
精　製	三五〇
粗　製	三〇〇
△石鹼（內國製一キロに付）	
特　等	一、五〇〇
上	一、二〇〇
同　中	一、〇〇〇
△鹽豚（一キロに付）	
生　鹽	一、六〇〇
漬	一、四〇〇
△ローソク（パウリスタ型）	
八本入一包	一、八〇〇

以上は公共食料品調査會が設定した最高小賣相場で、現金又は三十日拂掛賣の場合に適用するものである而して此等の必要品の販賣に從事する商人が今回制定の調節令又は其の附則に違反して投機的商行爲をなすときは戰時中及び戰後六ケ月間其の營業許可を取消されるのみならず猶且つ下記の通りの制裁を受くるのである。

公共食料品調査會ガ制定セル規定ニ違反スルトキハ二百ミルレース以上五十コントス、デ、レース以下の罰金ニ處ス、再ビ違反スルトキハ一ケ月以上一ケ年以下ノ禁錮ニ處シ前掲ノ罰金ヲ附加スルコトアルベシ

蓋し該法令を勵行せられなば第一に影響を被る者は小賣商人である、其れに次で小賣と製造と兼業のパン屋の如き、生產と小賣と同一人の野菜耕作者の如きも大分困ると思ふが日本人大多數の樣に販路を外國にまで有する穀物生產者には左程恐るべき影響がなからう、何となれば今日世界の市場は穀物不足に苦しんでゐるからである、是まで本紙に屢々述べたるが如く、經濟上の問題殊に外國にまで關係するものは單に一遍の法令丈にては能くしあたはざるものであるから、我が同胞は此の際決して狼狽する處なく、靜かに其の成行を眺めて居つて可いと思ふのである。

戸籍屆出方に就て（二）

帝國總領事館　成瀨　廉

▲本來の嫡出子　夫婦關係（事實上の夫婦關係でなく法律上の即ち婚姻屆濟の夫婦）のある間に妻の孕んだ子は其の子の生れる時に父母の間に夫婦關係あるなしに關らず即ち生れる時に離婚屆出濟であつても其の子は本來の嫡出子で父は嫡子出生屆をする義務がある。而し子が何時どの男から孕まされたかは母御御自身でなければ知れぬことで時には母御御自身でさへ誰の子か判斷のつかぬことさへあると云ふことで、れ前さんの子です否や已の子でないと爭も起るからうこは法律が定めてある即ち夫婦關係存續中に孕んだ子と明らかな時と婚姻屆出の日（屆書の日附でなく戸籍吏又は總領事の受付けた日を云ふ以下同じ）から二百日後又は離婚屆出の日から三百日以內に生れた子は夫の子として嫡出子と認められるのである。

▲屆出義務者　嫡出子の出生は本則として父が屆出なければならぬが父か子の出生前に死んだり其家を去つたり（家を去るとは戸籍を離れること、前回參照）又は旅行其他何か差支ある時は母が屆出でなければならぬ。若し父も母も屆出が出來ない時は左記の者が其順序に從つて屆出なければならぬ。

第一　戸主
第二　同居者
第三　分娩に立會た醫者又は產婆
第四　分娩を介抱した者

此等は何れも屆出義務者であつて生れて十四日內に正當の理由がなくて屆出ないと十圓以下の科料に處せられるのである。父以外の者が屆出る時は自分より先順位義務者が屆出得ない理由を屆書に書くことが必要である。

▲屆書記載事項　屆書には左記の事を記さなければならぬが此の外戸籍に記載すべき事を明瞭ならしむるに必要なことは書いてよい（舊戸籍法では法定事項以外は記載を許さなかつたが改正法は反對の主義を執た）

一、子の氏名及び男女の別
二、出生の年月日時及び場所
三、父母の氏名本籍及び職業
四、子の入る可き家の戸主の氏名及び本籍
五、屆出の年月日
六、屆出人の本籍現住所氏名及生年月日（若し屆出人が戸主でなければ戸主の氏名及戸主との續柄をも記すを要する）
七、屆出人と出生兒との續柄

以上の事項は必要にして且つ充分なものであるが今之を屆書らしい形式にして其の雛形を示すと次の樣になる但屆書は二通を要するのを忘れてはならぬ。

出生屆

本籍　東京市麻布區本村町壹番地
戸主成瀨太郎參男農
父　成瀨一郎
母　成瀨良子
出生兒長男　成瀨次郎
一、出生ノ年月日時　大正七年拾月四日午前八時
一、出生ノ場所　伯國サンパウロ州サンパウロ市ラルゴダセイ參號
右出生候間此段及御屆候也
大正七年拾月拾日
本籍　東京市麻布區本村町壹番地
戸主成瀨太郎參男
現住所　伯國サンパウロ州サンパウロ市ラルゴダセイ參號
右父　成瀨一郎「印」
明治貳年壹月壹日生

在サンパウロ
總領事　松村貞雄殿

此れが最も簡單な場合の屆書の形式である其の說明は次回として一寸御注意して置きたいのは諸君の便宜の爲めリベロンプレートに當館の分館が設置されて副領事三隅棄藏氏が居られるから其の近くの人々は同副領事へ屆出られる方が便利である又屆書を郵送される時は封袋の裏になると現住所を伯國文字で何線何驛何耕地と明記するを忘れてはならぬ。でないと一寸と訂正する箇所あつて請求する場合に郵便が滿足に屆かぬので困ることがある。

◉衛生顧問欄

高岡醫師

●問　一兩年前より大便の尖端に淡黄色樣の粘液（或時は白色）附着し又或時大便外側に、切れ〳〵に白の痕をなして出ることあり、肛門はさしたる異狀なきも激動或は炎天のもとに長道中又は極寒の折などに必ず少々の痒みを覺ゆると共に、肛門の右邊に小豆大程の小局部的腫れ味を呈することあり、内外兩服用藥指示を乞ふ（西北生）

○答　多分痔核と云ふ病氣がある故と思われる、常に大便の通しを良くし（なる可く食物でか減して）刺戟性の食物を避け、同時に腸をいためぬ樣に注意してゐることが必要である此位の程度のものは特別の手當も不必要だし、内服藥も全然無効である尙心配だつたら手術すると根治する

○問　今回にて淋病前後四回、發病は今より十年前、幸ひ今度は三週間目にて全治せしも、尙體内の血液を新清ならしめんが爲め特効ある内服藥を用ひんとす此藥の御敎示を乞ふ（同上生）

○答　淋痛は局所病と云ふもので、身體全體にに毒の擴布る事が無いものである、慢性になると殆んど一生治らないと云ふ程頑固なものです、根治法などゝいふ調法なものが未だ出來て居らぬ、つまりはこんな病氣をどん〳〵治してやると世間の人間があまりに不品行になると云ふ神樣の意志かも知れぬ。

●問　十日前より腕又は足部に腫物を生じ、最初の足部は和藥のスイ出しして平癒なし候處又々右手の拇指日夜疼痛を初め誠に固り居り候間何卒良き下毒劑を御敎へ願上候TK生

○答　これは内服藥は無効です、最初はヨヂムウム丁幾を塗り五十倍の硼酸水で度々冷して見て、どうしても痛みが止まらなかつたら、今度は反對に指を温硼酸水の中に浸けて温めて見ると案外痛みに効き目がある結局これは膿む性質のものかと思われる、尙食慾が無いとの事ですが、無暗と藥を用ひては惡いから、原因から改めて眞實に食慾を出す樣にする方が良い。

●問　三十二才の男三年以來曲腰にて長時間勞動すれば少々腰部に痛みを感じ居り候へ共其まゝ打棄て置き候處本年に至りて非常に痛みを生じ下腹固くなり時としては歩行も叶はず甚だ困難致し居り候何卒藥名及養生法御敎示願上候（廣瀬雪馬）

○答　脇の痛みは割合出り惡いものです、甚い時は仕事を休み入浴して充分に温まる樣にし局部には一日二回位ヨヂウム丁幾を塗附する、これで尙痛かつたらアスピリナと云ふ藥を六〇センチグラマを頃服として一回に服用すると良い、これは一日二回乃至三回迄用ひて差支ない、同時に腸の惡い人は腰が痛む傾向がある から、平生腸を傷めぬ樣に氣を附けねばならぬ。

サンタカーザ寄附者芳名並金額（第十七回）

（七月廿九日迄ノ分）

●イゲアペ植民地レザストロ之部

一金二ミル　新垣武文
一金一ミル　赤嶺蒲
一金五ミル　秋永國作
一金二ミル　阿久根金之助
一金一ミル　新垣嘉味
一金一ミル　同信道
一金一ミル　同袋信
一金一ミル　青柳新治
一金五ミル　馬場留四郎
一金二ミル　土井萬七
一金六ミル　深町信一
一金三ミル　藤井榮吉
一金二ミル　同吾三郎
一金一ミル五百　福田貞次
一金一ミル　同長四郎
一金三ミル　藤原滿壽門
一金一ミル　同秀人
一金五百レース　古堅松太郎
一金二ミル　城間久榮
一金二ミル　同龜
一金一ミル　吳屋德盛
一金二ミル　宜保新地
一金二ミル　服部與三郎
一金五ミル　廣岡金作
一金一ミル　平口亨三郎
一金二ミル　樋口崎太郎
一金一ミル　平出二郎
一金二ミル　羽高權藏
一金五ミル　石川龜三郎
一金二ミル　石崎善四郎
一金一ミル　生森源二
一金二ミル　茨木友次郎
一金二ミル　金子繁松
一金一ミル　倉島駒治
一金二ミル　山本愛助
一金一ミル五百　國行卯一
一金五ミル　龜岡龜市
一金一ミル　河野圓松
一金十ミル　黑田與太郎
一金三ミル　熊代九左衛門
一金一ミル　河野群平
一金二ミル　北原地價造
一金一ミル五百　米須松
一金一ミル　小林武治郎
一金二ミル　北川與三吉
一金五百レース　前地七郎
一金三ミル　守屋多賀一
一金二ミル　丸山爲治
一金一ミル　松橋久彌
一金一ミル　村上幸太郎
一金一ミル　宮坂三治
一金五ミル　宮城賀明
一金二ミル　村田厚
一金二ミル　外間政春
一金五百レース　村田政勝
一金一ミル　永田鎗二
一金一ミル　仲里龜吉
一金五百レース　中矢勝一
一金一ミル五百　中村宰吉
一金一ミル　南島松太郎
一金五百レース　中尾秀熊
一金一ミル五百　永利倉藏
一金一ミル　仲村渠常清
一金三ミル　野原龜太
一金二ミル　永井覺市
一金二ミル　仲村渠三郎
一金二ミル　永村龜
一金二ミル　太田政彌
一金一ミル五百　岡本末男
一金二ミル　大鹿慶太郎
一金三ミル　大城多道
一金三ミル　奥間政行
一金二ミル　奥間政山
一金五ミル　六川佐市
一金二ミル　鮫島滿次郎
一金一ミル　新里松
一金一ミル五百、土井直一
一金五ミル　角田由三郎
一金五ミル　清水吉藏
一金十ミル　重元又喜
一金五ミル　島津勝太郎
一金五ミル　篠原留造
一金五ミル　識名盛光
一金五ミル　住川米藏
一金百ミル　坂野幸太郎
一金五ミル　佐美曾初太郎
一金三百ミル　田中喜好
高野實
●ビリゲ井ー驛
一金十ミル　高田寅一
一金十ミル　竹下市太郎
一金十ミル　田中太四郎
一金十ミル　田中亮三
一金十ミル　友寄隆豐
一金五ミル　高野卯一郎
一金五ミル　運天政男
一金五ミル　渡邊龜藏
一金五ミル　吉田久吾
一金五ミル　山田鶴一
一金五ミル　横谷久
一金五ミル　屋比久孟善
一金五ミル　善本元一
一金五ミル　山室滋治
一金五ミル　安田安兵衛
一金五ミル　山岸又助
一金五ミル　與那嶺與保
一金五ミル　與儀憲龜
一金五ミル　柳橋彌作
一金四ミル　與那嶺宇舍
一金四ミル　屋比久孟三
一金四ミル　山寺融
一金四ミル　與座盛祿
一金四ミル　川邊圓太郎
一金四ミル　內田登志雄
一金四ミル　大原重二
一金四ミル　河內長四郎
一金三ミル　渡邊和佐太郎
一金三ミル　古木禎一
一金三ミル　岡田勘市
一金三ミル　武居高美
一金三ミル　前川力之助
一金三ミル　田和利一
一金三ミル　尾山龜吉
一金三ミル　福田政被
一金三ミル　平田和藤次
一金三ミル　櫻木秀吉
一金二ミル　運天政行
一金二ミル　上村傳次郎
一金二ミル　井上日多助
一金二ミル　勝俣九郎
一金二ミル　吉田七造
一金二ミル　同源之助
一金二ミル　磯邊傳四郎
一金二ミル　齋藤善久
一金二ミル　長澤新吉
一金二ミル　齋藤和三郎
一金二ミル　岩本庄三郎
一金二ミル　菊田與二郎
一金二ミル　小芦清太
一金一ミル　樋口兼吉
一金一ミル　中島又一
一金一ミル　佐野新太郎
一金一ミル　浦六平
一金一ミル　栗山好松
一金一ミル　中尾忠圓
一金一ミル　菅野政元
一金一ミル　長谷川榮三郎
一金一ミル　高橋熊太郎
一金一ミル　松熊市之助
一金一ミル　茶園八十八
一金一ミル　渡邊太之助
一金一ミル　同光直
一金一ミル　鈴木與一
一金一ミル　畠山仲吉
一金一ミル　無名氏
一金二十ミル　宮崎八郎
小計金九百十五ミル也
古川福松
累計金九コントス
九百七十ミル百レース
山口作圓
淵野佐七
古賀儀八
橋村富太郎
米倉初三郎
川口增市
池田次吉
森田茂市
吉原福松
武田國助
納富寛次
宮崎繁太郎
木島仙右衛門
岡村逸作
高橋源吉
米替竹造
稻益光太郎
大川內勇一
荒川政次
伯刺西爾拓殖株式會社
Miguel Aby-Azar

穀物仲買廣告

但しソロカバナ線及ノロエステ線に限る

一、籾　二〇〇俵以上
一、伯豆　二〇〇俵以上
一、棉　五〇〇アローバ以上
一、唐黍　五〇〇俵以上
一、御通知次第參上可仕候
一、賣價と期限御約束定まり候上は空袋は直ちに御地驛宛送附仕る可く候
一、代價は現物御地驛當着次第引換に全部支拂申上ぐ可く候

大正七年正月五日
電話三番
S. YAMAGUCHI
Nucleo Colonial Monção
Estação Cerqueira Cezar
Linha Sorocabana
山口川之助

日本金兩替

●金銀貨多少に拘はず兩替可申上候

ブラジル語獨習

紙數三百十二頁　送料共六ミル
發行所　秀英舍

日本に於て最優等の本を探せしも未だ本書以上に勝れる者を見ず内容は單語大多數なれば初學者の爲には殊に便利なり

化粧品ねりたしろい、齒磨粉石鹼髮油等二十餘種到着仕候

◎新荷着

●土佐片地黑打上等品
尺八寸十八ミル、二尺二十二ミル、二尺二寸二十六ミル、二尺四寸三十三ミル、二尺六寸三十五ミル、二尺八寸四十ミル、三尺四十五ミル、ガンド二尺二十四ミル送料二尺二寸迄一枚に付一ミル、二尺四寸より一枚に付二ミル、備中クワ上十二ミル、備中クワ中八ミル、鎌（カマ）三ミル五百、二枚カンナ七ミル、ワキ取り五ミル、大工鋸横尺一寸十三ミル、同立尺十二ミル同横八寸十ミル、同立八寸十ミル、笹鋸尺一寸十三ミル、笹鋸尺十二ミル、差金鐵六ミル、土佐鋸鋸組一ミル、前丁ナ（拇付）十ミル、前丁ナ柄櫻四ミル、墨坪用ケヅリ墨百目入一袋十ミル、五十グラム一ミル五百、土佐鋸ヤスリ一ミル、大タ一ミル二百、大工ヤスリ小七百大中八百レース
○ノミ柄輪金大小○剃刀砥石七釬○大村砥石十釬（目方約五キロ）○本山青砥石十二釬（二キロ半）○タ、キ六分ノミ二釬五百レイス、○金剛砂一袋五百○其の他大工道具類各種○大算盤八釬○ポケット入うろばん各種○かもじ○口紅○白粉○日本齒揚子○齒磨粉

陸稻もみ、同うるち、水稻うるち、夏そば、枝さや大豆、穀物種子類、野菜類、花類全部百三十余種新着仕候

御一報次第販賣品總目錄御送呈可仕候

●貸本可仕候

ブラジル時報市內中込所
聖市コンデ
サルゼーダス街五一番

木藤商會

大澤醬油取次所　KIDO SHOKAI
Caixa Postal 1466
R. C. Sarzedas 51
S. Paulo

◉日本近信

●火藥暴發の原因は激衝か

◇內容は荷造りが大丈夫

下の關埠頭に於ての火藥大暴發椿事の慘憺たる光景に就ては曩に報道したる處なるが今其の原因について陸軍兵器局長渡邊中將の談を聽くに

▲今回露領遠征軍に向け輸送すべき火藥搭載の貨車が下の關驛の待避線に入つて船に積込んでゐた際暴發したものであるが其積込みの場所が崖になつてゐる多分人夫の手で積込まれる際暴發物が强く其崖にぶつかつた爲に不慮の暴發を起したのであらうと思ふ、偶々京都行列車が其餘勢の爲め破損して五十餘名の負傷を出し猶火藥取扱中の人夫二十餘名が崩壞した崖の土砂中に埋沒した、決して火藥の內容や荷造の不完全な爲の暴發ではない、何故なれば既に積出して二三日も經てゐるので若し荷造其他に不完全な點があるとしたら夫れ迄に椿事がなければならない、其點は大丈夫である、現場調査の爲め兵器本廠からは藤井少佐が急行したが猶其調査の結果に依つては技術本部からも人を出す事にしてゐる、兎に角此原因に就きては充分調査研究する所である、從來火藥暴發に對しては原因常に不明であるが不明として放置す可きでないから今回は嚴重に究問する方針である云々

▲又今度の大暴發で行衛不明になつた內國通運會社作業課員小林友太氏遺族の語る處に依れば「友太は長野縣に生れ若い頃車掌となつて舊日本鐵道の佐貫驛々長とまでなつたが日露戰役の頃日本鐵道を辭して姫路に運送業を營み思はしくないので間もなく廢業、農商務省の雇となり其後大阪の會社に入つたが大正三年正月今の會社に轉じたのです、今度は社から小林でなければならぬと云はれて出張したが今朝號外を見て驚いて本社に問ひ合せたりしてゐると午後一時頃野口秘書課長が社長代理として訪ねられ生死不明と云ふ通信があつたと申されました」と、尙ほ留守宅には妻女てつ子（三八）長男都友（一七）次男親友（九つ）長女りう子（一二）次女信子（五つ）の五人あり

▼松竹事務所氣を揉む

小團次の負傷

折惡く第四十四號京都行上り列車に乘り合はせて災厄を受けたる俳優市川小團次、松竹外交主任山森三九郎氏以下の消息につき築地松竹合名會社を訪問すれば社員は曰く『何しろ主任の山森君が負傷したらしいから電報も一向來ず當方でも心配許りして手がつけられません、此巡業は左團次、小團次、壽美藏、松莵等と云ふ一行ですが其全部があの汽車には乘り合はせて居ません、と云ふのは興行地の門司の凱旋座は廿六日迄の興行ですから芝居はどうしても同夜十一時近く迄かゝる、だから十一時二十分の連絡船に乘る事は困難で小團次等は身體が早く明いたので一座より先へ出發したのでせう、左團次からは廿八日の午前八時卅分に東京へ着くと云ふ通信がありましたから門司發は廿七日で、之は安心です、一行中他の俳優達でどの位怪我をしてゐるか歌舞伎座開場を控へてゐますから頻りに氣をもんで居ます」と

▼過失か不可抗力か

內國通運會社下關支店より未だ東京本社に詳報臻らず從つて支店員生死の程も分明ならず宿直の社員語つて曰く「何しろ重要物件の取扱ひとて本社より監督員を特派したる位であるから支店員は支店長を始め總出で作業を督してゐたに相違ない從つて責任者は悉く死傷して驛前の支店中に殘つた下級店員が椿事に狼狽して唯當惑してゐるのかも知れぬ或は新聞に據ると仲仕が取扱中の荷を落したるが原因であるやうに書いてゐるが吾々にはそれは信じられない、扱つてゐる物件の何であるかをよく知つてゐる上に監督者の指揮の下に熟練した仲仕が作業してゐたのだからとて訪ねられ生死不明と云ふ通信があつたと申されました」と、尙ほ留守宅には妻女てつ子（三八）長男都友（一七）次男親友（九つ）長女りう子（一二）次女信子（五つ）の五人あり

▼松竹事務所氣を揉む

小團次の負傷

折惡く第四十四號京都行上り列車に乘り合はせて災厄を受けたる俳優市川小團次、松竹外交主任山森三九郎氏以下の消息につき築地松竹合名會社を訪問すれば社員は曰く『何しろ主任の山森君が負傷したらしいから電報も一向來ず當方でも心配許りして手がつけられません、此巡業は左團次、小團次、壽美藏、松莵等と云ふ一行ですが其全部があの汽車には乘り合はせて居ません、と云ふのは興行地の門司の凱旋座は廿六日迄の興行ですから芝居はどうしても同夜十一時近く迄かゝる、だから十一時二十分の連絡船に乘る事は困難で小團次等は身體が早く明いたので一座より先へ出發したのでせう、左團次からは廿八日の午前八時卅分に東京へ着くと云ふ通信がありましたから門司發は廿七日で、之は安心です、一行中他の俳優達でどの位怪我をしてゐるか歌舞伎座開場を控へてゐますから頻りに氣をもんで居ます」と

ないと思ふ、當時暴風で海が非常に荒れてゐたと云ふから或は不可抗力の原因が起つたのではないかと想像される」云々と語つてゐたが

▲直ぐ其の後不思議にも此の災厄から命だけが助かつた重傷者金田源太と云ふ船頭の實話を聞くに「夜の十二時頃自分は棹を持つて艀船に立つて居ると陸上で仲仕が火藥の箱の毀れを繕ふ爲に釘を打つて居たから危險だと思ふ中三箱目に釘を打込んだ刹那一大火柱が立つて艀船に積んだ火藥に移りとう〳〵あの慘事を惹き起した次第です」と、果して之が眞原因か何れ當局の責任ある調査を俟つて更に報道することにする。

●大得意のチェツク軍

＝されど懸軍萬里なり何より困難は食料の缺乏＝

浦鹽方面に於けるチェツク族の動靜について參謀本部の某大尉は語る、

「浦鹽市街にはチェツク族は今一人も殘留して居ない、此處に居た一萬五千のチェツクは殆ど全部北方スバスコイ方面に進出して居ると見ていゝ尤も去月廿九日浦鹽の大騷動で過激派を擊破し同市を占領した後過激派軍は遠く沿海州の東方蘇城方面に追跡した　一部のチェツクが同地附近に固着して此處の炭礦事業に從事し生活の基礎を作つて居るものもあるらしい、本來彼等は浦鹽に二千烏蘇里の鐵道沿線に二千の同族を殘し後の一萬一千に以て遠くイルクツクに進擊し過激派を擊攘して友軍の救援の目的を　達せんと　して居るのだが一方に彼の滿洲より起つたカルムノコフも露支國境から進出して彼等の故郷たる烏蘇里コサツク墳墓の地を素ねてイーマン方面に向はんとし偶々チェツクと相會し過激派軍擊攘の目的を同じうして居る

▲關係から　兩者の提携が此處に成立せんとしつゝある去る十三日にチエツク軍はスバスコイに於いて再び約五千の過激派を取り次第に勢力を擴張し大得意で居るが併し高が一萬餘のチェツクが極東遠隔の地に突如として現れたのであるから今後如何にして民族の　地歩を占め得るやは元より疑問であるが相當に意氣を以て立つた彼等であるから今回の日本の後援出兵に對しても恐らく矢玉の盡きる迄は戰ふであらう、それよりも彼等は食料品の缺乏に甚だしく苦しめられて居る今度日米兩國が浦鹽に出兵するとなれば彼等は其武力的援助よりは寧ろ食料品の供給を第一に熱望するであらう」云々

▶鞏固なる

◉八ヶ月の間に六箇所へ轉賣された可憐な少女

◆婦人貞操保護のために新判例を作らせやうと婦人矯風會の運動

◇婦人矯風會　では三澤千代野なる憐むべき一少女の身の上に關聯して婦人貞操保護の爲に法律上新に一判決例を作らせやうとする目當で運動を起してゐる千代野は橫濱の古着商の娘でスミルザー氏夫妻の經營するスミルザー校に通學して居たが十八歳の時千葉縣の或旅人宿に女中として

◇金四十圓の　仕度金で連れ出されたのが最初で其後醜業を强ひられて更に茨城縣下の某料理店に轉賣され毆打監禁されて遂に逃亡を企て捕へられて發見された而して昨年十二月中千代野は遂に慈愛會に收容される事となつたが矯風會では

◇婦人の意志　に反して醜業を强ふる者に對する制裁と婦人の自由うの物の尊重の爲に千代野を轉賣したる六人の內四人を告訴することにして金五百圓の訴訟費用を用意して本年智識階級の婦人數千人の陳情書を作製して連名捺印の上今月末東京の裁判所に訴訟を提起する筈である

◇收容する事　に話が纏まつたが千代野は其間に又轉賣されて居所不明となつてゐるれを又婦人矯風會の助力で遂に探し出したが千代野は八ヶ月間に六ケ所へ轉賣されてゐた事實が

S　Não foi despedido?（ノン フォイ デスペヂード）

出されたのではなかつたか

M　Não senhora; para que vou enganal-a?（ノン セニョーラ パラ ケ ヴォ エンガナーラ）

いえ。うんなことはありません。何の爲めにあなたを騙ましませうか

S　Pode trazer-me a carta de referencia dessa casa?（ポーデ トラゼールメ ア カルタ デ レフェレンシア デーサ カーザ）

うの家の身元紹介狀が持つて來られますか

M　Não só desta, mas de todas as casas onde servi.（ノン ソー デスタ マス デ トダス アス カーザス オンデ セルヴィ）

唯にこの家の許りでなく私が奉行した總ての家のを(持つて來ます)

S　Que ordenado quer?（ケ オルデナード ケール）

給料は幾何欲いかね

M　Eu ganhava cincoenta mil reis por mez.（エウ エニャーヴァ シンコエンタ ミル レイス ポル メース）

私は月に五十ミルレース取つて居りました

S　Não costumo pagar tanto. para começar, pagarei quarenta mil reis e depois conforme o seu serviço, darei o ordenado que você pede.（ノン コスツーモ パガール タンツ パラ コメサール パガレイ クァレンタ ミル レイス エ デポイス コンフォルメ オ セウ セルヴィーソ ダレー オ オルデナード ケ ヴォセー ペーデ）

うんなに拂ふ習慣がない。先づ四十ミルレース拂ひませう。そして後に御前の仕事如何に依りて御前の要求する給料を拂ふことゝしませう

接續詞

接續詞は前置詞の如く結付くる役目を持つ語であるが前置詞は單語と單語を。接續詞は文句と文句を結付ける點に於て相異す。或接續詞は場合によりては單語を結び付けて居る樣に見ゆれども實際は表面に現はれざる即ち省略されたる文句を結付けて居るのである。例へば

Eu e elle vamos á cidade の e は單に eu と elle を結べるものにあらずして Eu vou á cidade. と Elle vae á cidade. との二文句を結付けて居る接續詞である

尤も此の e と言ふ接續詞は場合により com てふ前置詞の役目をすることがある。例へば Dois e trez são cinco.（二と三は五である）

次に主なる接續詞につき說明せん

E—此語は邦語の及び。而して等に相當し單に接續の役目を爲すのみである。此語に依りて結び付けんとする語が三つ以上並ぶ時は終りより二番目の語と最後の語との間に此語を置き他の語の次に（'）の記號を附せば宜し。例へば

Taro, Jiro, Saburo e Shiro são filhos d'elle.

大郎。次郎。三郎及び四郎は彼の子供です

Tambem—同樣に。此の語は副詞として用ひらるゝこと前出の如し

副詞　Lá choveu e aqui tambem.

接續詞　Elle foi, tambem eu.

彼は行きました私も亦行きました

Nem—二つ用法あり。一つは e não の意味で双方の否定句を結ひ付け。他の一つは何れも彼れも何々せぬの意味で同一の句の中で繰返さるゝのである

前者の例　Elle não veio, nem escreveu.

南行紀

坂元靖

第七區　自ブエノス市至リオ市

▲船中雑感

五月廿二日午後二時松田五郎君に見送られ、英船 S. S. THONGUA 號に身を搭じたる余は、汽笛一聲出帆の合示と共にブエノス、アイレスに惜き別れを告げて北行せり。

二十三日朝眼覺れば船は「モンテビデオ」港砲臺山下に碇泊しありたり船員は皆英語を話し、船客亦英語を操るを以て余に取りては不便少なからざりしも、事務長（印度人）は各國語に通じ、葡語を解する亞國人又三名ありたる爲め互に相語りて船中の無聊を慰せり、下級船員は多く印度人にして、有色の好にや余に大に親切なりしは少と有難迷惑なりし。

此の日午後四時抜錨愈々「リオ港」に向ひたり、同船の今日一日「モンテビデオ」に假泊せる何の意味たるを知るに苦しみしが後に聞けば獨逸海軍に對し出帆時間を晦ます爲めなりと、夜に入りて風あり浪少しく高けれど明月皓々として海上を光し一種悲哀の感を起さしめたり、偶々人あり余に英語を以て話かく、頭をめぐらせばこれなん印度の一青年同船々醫にして、頻りに日本の文明と實力の進歩とを賞讃し、日本は眞に亞細亞の盟主なり、日、支、印同盟を作りて世界に覇を爲すは一に日本の力に頼らざる可からずと、盛んに亞細亞同盟論を主張せるも、肝腎の余は一向に英語を話さず、唯だ二十年前に習ひし「ナショナルリーダ」の單語を並べてお茶を濁すのみ、此の場合ひ印度青年の意氣や甚だ壯にして、日本男子の振はざること夥しかりし

二十四日に至るや風漸く強く、怒濤狂ひ來りて舷を蹴り、七千餘噸の巨船恰も木の葉の疾風に翻へるが如く爲めに船客殆ど醉へり、但だ獨り東洋の男子たる余は、ボーイを呼び三井物産販賣の「大阪朝日ビール」を持ち來らしめ、盛んにビールを煽りつゝ空元氣を上げたるは、幾分昨夜の不振を恢復せし心地して愉快なりし

翌二十五日風波更に強く、今日も亦上甲板は余の獨占なりと思ひの外、英國婦人の一組何所よりか顯はれ來りて、クリッケットの遊戯を開始せしには、余の空元氣の手前恥かしきこと限りなし。

二十六日風波全くおさまり、昨日の苦痛は今日の歡樂と變り、暖氣又加はりたれば上甲板は急に一大運動場と化し、花の如き白人少女等の戯れは眞に余をして俗界の外に在るを覺へしむ、二十七日は暑さ漸く加はり船員は白服と變り、軟風徐ろに來りて人の心を緩くするのあたり、ヤハリ寒國よりも暖國の方人類の生活に佳なるを思はしむ。

二十八日は「リオ」港に到着の日、早朝より上陸の用意を爲して後上甲板に上れば、懐しき「ポアン、ダ、スーカル」は雲間に高く聳へて余の歸着を迎ふるが如く、嬉しいと思ふ間程なく船は愈々灣内に入り、一同に惜しき別れを告げて上陸せしは正午近き頃なりき。

「リオ」市に着するや先づ何よりも陸の馳走にて腹を慰し、其れより舊友二三を訪問して其の日の夜行列車に聖市へ向ふことゝせり。聖市は余が第二の故郷、翌朝無事に歸着して草鞋ならぬ靴の紐解けば、南車北船三週間ぬ疲れ一度に發してガッカリせしの感ありき（了）

梅辨の山の中から

渡邊孝

直通列車も大瀧以北になると非常なバカブンドとなつて恰もゴヤイス鐵道のりれの如くである、併し比較的砂塵の上らぬこと及び早春のみどりとが乘客の目をなぐさめる、地勢の關係で線路は他方面に見るが如く迂曲してゐないで汽車は分水嶺を只一直線に走り停車場の設備も悪くない、バラガスーに着いた頃日は西に沒して舊暦八月十五夜とも思はるゝ月が出た、空腹を抱えてインヂアナに着いたは午後の十時半頃であつたオウリーニョス方面から同車した同胞十數名皆梅辨及びブレヂョン殖民地の入殖者で五六才になる可愛らしい二人の女子供もゐた、本線一等乘客の大部分は所謂バトロンといふ側ではなく技師連中が多い、これ即ち此線の現在を物語つてゐる。

ホテルで食事をすまして又停車場に來て見ると、日本人の多くは毛布や信玄袋を利用してプラットホームに露營の準備を始めてゐた、來てゐる筈の土工列車がまだ來てゐないためである、聖市から來たといふ青年は一等列車の内にふんぞりかへつて二時半迄は此處で眠ると力んでゐた

インヂアナ村は、はるか谷底にあつて停車場は殆んど峯の頂山にあるバラナの方から吹いて來る風は仲々に寒い、外套の襟立てつゝプラットホームを行きつもどりつ月光を賞した、前面一帶がカンポであることは月光でも知ることが出來た、或伊太利亞人が直ぐ線路の側に鐵道用の薪を採つて來てたき火し始めた、自分の火を日本人にただであたられるが胸襄が悪かつためだらふ『ヂャポン薪は山にある』と嫌味を並べるが、うんなことに驚いてゐるヂャポンではない、家長さんが太い帶で子供を日本式に背負つて毛布をかぶり、妻君亦毛布を頭からかぶつて股あぶりに餘念ない、間もなく土工列車が着いたが生憎水汲み車だけしか連絡してゐない、或家長さんが水汲車だけでをとなはよいが子供はどうしようとさびしく妻君と話してゐるのを聞ゐて傍から『殖民地行きも仲々難儀しますねー』と、差出口したら『ほんとに難儀します』としみじみ語つてゐるを聞ゐて何ともいはれぬ感がした。

土工列車の出發は明朝の六時だといふ噂を眞實にして宿屋に行つたらもう空いた寢臺はない、もう午前一時で無暗に眠い、食堂に椅子を五つ並べ壁を利用し、麥藁帽子を枕にして寢た、目覺めて見たら居る筈の日本人も土工列車もゐない、徒歩と決心して線路を辿りかけると、ツルコの監督がけふ又土工列車があるといふ、又も停車場に後戻りした、十一時頃僕の名を呼ぶものがある、廣島の浦谷君で夜中梅辨から歩いて今着いた處だといふ、同氏に就いて梅辨方面の大略を聞き、同氏の配慮でラモス會社の代理人カルドソ氏から馬と案内人とを得た、カ氏が此處の技師に宛てゝ僕に呉れた手紙には『此日本人を大切に取扱へ、何となればこの人間は吾々の土地に就て大にブロバガンダするだらふと信ずるから』と書いてあつた、この手紙手に入ればもう大丈夫と思ふてゐたが事實はうでなかつた、案内人はカ氏の如く僕を見て呉れなかつた、技師さんも他出してゐなかつた、四五日後でなくてはかへらぬといふ、とう、とう此處へ舞ひ込んだ、今僕のこれを書いてゐる處は梅辨停車場からピニャ福島といふ山奥浦谷君の處である。

きのふの朝七時、インデアナを出て昨夜はウルカイアに一泊した、勝手知つた案内人は近路ばかりして、ひどい處をつれて通る、ベアードで小憩したばかり馳け通しに、ゐれでもウルカイアに着た時は日沒後であつた、パンの一片を同行の西班牙人から貰つて口に入れたばかり案内人が夕食はウルカアイで用意させるといふたことも留守番が留守でをちやんになり、蚊の多いランショで水だけ呑んで眠つた、こんな場合馬なぐ有難いもので何かしら探して食ふてゐた、鐵道工夫が澤山鍋を並べて煮てゐるコミーダを見ると益々空腹を覺えて十時頃カンバメントに到着し漸く豆と米にありついた。

きのふは一口の珈琲をも呑み得なかつたを恰も知つてゐるかの如く、けふは又浦谷君の奥さんが、切りと大きなカチカで珈琲を呑ませる、インヂアナから此處迄約八十キロ、馬で約一日半を要した、ブレヂョン迄の汽車の街道は問もないことゝ思ふ同驛迄の街道は當方面殖民者のために至大の便益となるはいふ迄もないウルカイアの丘上にラマス氏の別邸がある、僕は同邸の前方に在るバウダリョの大きな切株に上つて月下に眠つてゐる樣な大自然を賞した。（二十一日）

彼は來もせねば又手紙も寄こしません

後者の例　Nem um nem outro me serve.

何れも此れも役に立たぬ

Que nem / Como ——の如く

例　E' doce que nem (como) o mel.

蜂の如く甘い

Mas, Porém—然し乍ら　Porém は mas に比べて反對の意より強し。且つは mas は結付けらるゝ從屬の句の前に置くを常とすれ porém は塲合により從屬句の句中に挾まるゝことあり

例　Elle falla o portuguez, mas não o escreve.

O Brazil é um paiz grande. A sua população, porem, não é grande.

ブラジルは大きい國であるが然し人口は大きく無い

Senão—にあらざれば

例　Antonio não chegará aqui, senão amanhã.

アントニオは明日でなければ此處に到着しません

Ou—或は　Ou vae ou fica? 行くのか行かぬのか

Pois, Por isso—それ故に

Isto é—即ち言ひ換ゆれば

例　Não posso comprar nada, isto é, sou pobre.

何も買ふ事が出來ぬ。言換へれば貧乏なんです

Por exemplo—例へば

例　Eu gostaria ver uma cidade bonita, por exemplo, Rio de Janeiro,

私は美しい町を見度い。例へばリオデジャヂイロを

Como, porque—故に

例　Como estou cançado, vou dermir. 疲れ居るから寢ませう

Para Ajustar um Criado

奉行人雇入れにつき

Moço; Eu vi no Diario Popular que a senhora precisava de um criado.
（エウ ヴィ ノ デアリオ ポプラール ケ ア セニョーラ プレシザーヴァ デ ウン クリアード）

（青年）私はヂアリオポプラール新聞で見ましたが。あなたは奉行人が御入用だるうですね

Patrôa Que serviço faz? Sabe servir á meza?
（ケ セルヴィーソ ファース サーバ セルヴィール アメーザ）

（女主人）何んの仕事をするかね。食卓の給仕が出來ますか

M Sim, senhora; posso servir de copeiro ou de criado.
（シン セニョーラ ポーソ セルヴィール デ コペイロ オウ デ クリアード）

はい。給仕人としても又下男としても仕事が出來ます

S Quanto tempo faz que está desempregado?
（クアント テンポ ファス ケ エスター デセンプレガード）

遊んで居るのはどの位になりますか

M Sómente um mez.
（ソメンテ ウン メース）

唯一箇月です

S Onde estava ultimamente?
（オンデ エスターヴァ ウルチマメンテ）

今まで何處に居りましたか

M Em casa de Fulano de Tal.
（エン カーザ デ フラーノ デ タール）

何某さんの家に居りました

S Porque a deixou?
（ポルケ ア デイショー）

何故その家を出ましたか

M Deixei-a pela doença que tive de tratar em casa do meu conhecido.
（デイシエイア ペラ ドエンサ ケ チーヴェ デ トラタール エン カーザ ド メウ コニェシード）

病氣の爲めに出ました。その病氣は私の知合ひの家で治さねばならなかつたのです

●倫敦電報

●政友會內閣成る

東京來電に依れば原政友會總裁は內閣を組織したり其の顏振れは左の如しと

內閣總理大臣兼司法大臣　原敬
外務大臣　內田康哉
內務大臣　床次竹次郎
大藏大臣　高橋是清
陸軍大臣　田中義一
海軍、文部、農商務、遞信の諸大臣未だ不明なりと（倫敦發三十日電）

附記　原敬氏に內閣組織の大命下れるは事實なるが如きも各省大臣の顏觸は多分想像なるべし

◎雜報

●物價調節令と商人

去月二十七日物價調節令が發表されてから商人殊に小賣商人が騷ぎ出したが、事實を云へば商人側にも物價變動の多い戰時を惡用し不當利得を敢てして一般需用者を苦しめてゐる廉も少なくないのであるから何れ政府と商人との間に適當な解決法が見出されるであらうと思ふが調節令の發表に依つて一番多く打擊を受ける者は資本豐富な奸商ではなくて却つて比較的正直な小商人であるからパン屋連中の騷ぎ出すのも理無がない樣である併し之れとて現在の値段は餘りに高きに失するから折角パン屋のストライキも物にならなかつたが今彼等の云ひ分を聞くと「公共食料調査會の調査に基いて定めた最高相場に二割五分を增して貰はねばパン屋は到底立ち行かぬから家庭配達を止めるより外はない」と、又珈琲商人は一アローバの珈琲實を粉にすると其の二割即ち三キロの損が出る、十二キロの珈琲粉を一キロ一ミル百レースに賣れと相場を定められたが一ミル百レースに賣れば一アローバの實（一キロ八百レース）は十三ミル二百レースで一アローバに對して利益は僅かに一ミル二百レースであれば其の製造に要する新代、手代番頭小僧、うれから家賃うれに又一アローバに付九百レースの消費印稅を拂はねばならぬ、これはどうして呉れると訴へ出た、所が市長ワシントン、ルイス氏は前司法警察長官で仓名高かつた硬骨男子うんな泣事で後退りをする樣な人ではない、調節令を發表する前には充分調査に調査を重ねて小賣商人の利益は勿論公衆の利益と並立せしむる爲めに細密な注意を拂つて編み出したのが今回の調節令である、商賣にに商賣の作法がある、人を苦しめ、人の血を吸ふのは、うりや商賣ではあるまい、と權力を振つての大喝には之に反抗する樣もなく一旦は恐入つて引き下つたが如何にも殘念とあつて公共食料品調査會に出頭して哀願に及んだが、文句があるなら市長へ持つて行け、筋違ひだとピンと撥飛ばされ、泣面に蜂とはこの事、何んでも長い物には卷かれよとばかりに妙な處に鼻を付けた、一日パン配達のストライキをやつて其翌日コソ〳〵パンを配つて廻る滑稽さ、うこへ行くと市立の市場は正々堂々たるもの客には一々印刷した相場表を示し昨日迄一キロ二ミルの玉葱は今日から八百下りの一ミル二百レース、砂糖はなんぼ、米はいくらと斷りながら賣つてゐる併しこれでも尙ほ飽き足らぬと農商務省の經濟調査會なゞでは力んでゐる、さうかと思ふと又一方では鐵道會社に談判して運賃を下げさするは當面の急務だと運動を開始した一派もあれば市場はこゝ當分混戰の狀態で持ち續くであらうから我が同胞は此の際冷靜に考へて輕擧せぬが得なるべし

暴沈河內の艦長

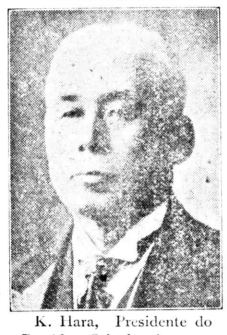
●正木大佐とはどんな人

軍艦河內暴沈の光景は旣に報道せる如くなるが其の悲慘を極めたる河內艦遭難の責任を一身に荷へる艦長正木大佐の人と爲に就て澤柳少佐の語る處を聞けりとて「日米」紙の報ずる處に依れば

◆彼れ正木大佐は渺たる廣島市の一古着屋の倅として生れたが立派に武士の氣概を知り武人の本領を心得てゐる快男兒である、自分は日露戰役當時當年の正木大尉が加はつた前後二回の旅順港口閉塞戰に際し之れが決死の覺悟雄々しき乘組將士の救助に從つたが、第二回當時米山丸の指揮官であつた正木大尉を救つたのは自分の乘込んだ某艦であつた

◆身を紅に染め九　死一生を得て我

内閣組織の大命に接せる政友會總裁原敬氏



K. Hara, Presidente do Partido Seiyukwai, que organisou o novo ministerio Japonez, segundo o telegramma de Londres.

等救助隊の掌に還つたアノ一刹那の同大尉の面持は今日猶彷彿として眼の前に在る、而して其の性格、氣概平常を思ひ合はすとき、彼の如き變災のため乘艦を沈め幾百の部下を殺し已れ生を遺して死ぬに死なれぬ今日の立場に陷つたと云ふことは、うが心中果して如何許りか、確か死にまさる苦しき立場とは

◆之れ之をこう云ふ　可きであらうと思ふ、從つて此事件の後始末が附いたら十中九迄自裁以て邦家に謝し亡はれたる部下幾百の生靈に酬ゆるであらうと思はれてならぬのである

又死者の中の機關長飯島機關中佐は自分より一級下の人で立派な男であつた、うれから水雷長であつた藤好鐵之助少佐は自分が三笠の分隊長當時乘組士官の一人として

◆一緒に乘艦し折角　自分等を助けてくれた數多い青年士官中に眞に部下として賴み得る人格、手腕、技倆を備へた好士官であつた、今や之れ等の諸君卒然として奇禍の爲亡はる坐ろに感慨無量の嘆に打たれざるを得ぬものがある」と、語る少佐の聲も何時とは無しに濡りを帶び聞く者心より動かされざるを得ぬものがあつた更に少佐は

◆日本海軍に不祥事　が割合に多き感あるではないかとの記者の露骨な問ひに答へて「イヤさう云ふ譯でもなからうが、一體日本海軍用の火藥りのものが非常に乍裂力の强いもので詳しい話は軍機上出來ぬが、人事の限りを盡し豫め警戒してゐるのだが遂に往々にして斯う云ふ災事の突發するは遺憾に堪へぬ」と語つた

●神谷信夫兩氏の消息

リマよりの通信に依れば海外興業會社專務取締役神谷忠雄、信夫淳平の兩氏は去月相前後して秘露に安着更に智利、亞爾然丁等視察の上木月中には來聖せらるべしと云ふ

●江越農學士着任

海外興業株式會社伯國支店技師長農學士江越信胤氏は來任の途中北米、秘露、智利、亞爾然丁等の產業狀態を視察し一昨日リオ着今朝當地に安着せられたり

●警戒すべき男

◇膩手紙を作つて女を脅迫す

本社地方通信員からの報道に依ればアラ、クワラ邊を彷徨てゐる熊本縣人の何某と云ふ男は伯人家庭に就働せる○○子女を無理に引出さんとの謀らみから膩手紙を作つて領事と見せかけ女を脅迫して居るさうだが旣に刑事探貞の耳にも這入つてゐるとのことだから馬鹿もいゝ加減にしないと同胞の面汚しになる

●狐の立小便？

グワタバラ耕地からの投書に依れば相當敎育ある婦人でありながら人前も憚からず立小便を失敬する者があるとのことなるが如何に伯國の習慣に馴れないとて常識を持つ者には出來ないこと多分其れは狐か狸の仕業ならんとは隣人の推察なり

●尋人見當る

去月二十日發行の本紙に尋人として廣告ありたる福岡縣人中山卯右衛門氏の妻女ハリは一時發狂の樣子にて入院中のサンタカーザを飛び出し行衛不明となりたるが其の後知人の許へ尋ね行き四五日前無事夫に引き取られ双方安心せりと云ふ

●人事來往

移民組合リベロン出張所主任明穗梅吉氏社用を帶びて去る二十八日出聖尙滯在中▲サブカイヤ米作地より安田良氏去る三十日夜出聖▲久しく灌聖したりし平野蓮平、瀧澤二三郎兩氏は去る一日夜行列車にて歸植の途に着く▲モンソン植民地より酒井吉四郎氏出聖▲海外興業久保田技師及び福川薩然氏耕地視察を終へて三日歸聖▲レヂストロ農業技手永島嚴氏モヂアナ方面へ研究旅行の爲め三日出聖

●ブラジル語獨習書　前回の便船にて木藤商會へ到着した葡語獨習書は尾白惇氏の著で葡語と英語と日本語と三者併記した單語澤山初學者向きの良書なれば爰に紹介す

鳥取縣東伯郡福米村字下福田
東洋移民取扱　明治四十五年
神奈川丸にて渡航

尋人

矢田友藏

明治十二年一月生

國許より急用ある旨申來り候に付本人又は同人現住所御存知の方は乍御手數左に御一報被下度願上候

伯刺西爾移民組合
リベロンプレト出張所
Caixa Postal 290. Ribeirão Preto

尋人廣告

熊本縣鹿本郡來民町大字
來民一千百三十二番地
西山寛次次男
敬　八（廿二才）

右之者三年以前に家出致し當時神經に異狀有之事とて大いに心配未だに當人の行衛不明甚だ困り居り候故本人又は當人の現住所御存知の御方は乍御手數左に御一報を乞ふ

聖洲モヂアナ線マカウバス
停車場マカウバス耕地
中島道平
Fazenda Macahubas
Estação Macahubas
Linha Mogyana

爲換　（四日）

英貨	一磅	伯貨	一九針三九三
日貨	一圓	伯貨	二針〇八六

寫眞

從來皆樣の御引立に依り出張撮影罷在候處今回左の所にて開業仕候、從て今後光線は勿論總てに於て一層優良なる寫眞を調製致可く候得ば何卒倍舊の御用仰付被下度奉願上候、猶和服にて撮影御希望の方には男女共持合せ有之候

石井一歩

一、廿才以上の青年を求む乞御來談

Praça da Republica
Rua Ipiranga, 85 S. Paulo

福岡縣三井郡草野町犬字草野
上村仁平　氏豫て病氣にてサントス市サンタカーザへ入院中の處醫藥効なく九月廿二日遂に死亡致候間此段生前辱知諸君に御通知申上候
友人總代　平田初太郎
南島元吉
Officina Companhia
Locus Chapa 735

●土地

最良土地を最良條件の下に賣却す希望の者には明細書（邦文）送付すべければ左記へ照會あれ

代理人　矢崎節夫
Villa Costina L. Mogyana
コスチーナ
土地殖民會社
Dr. Lobieno da Costa Machado
R. Barão Itapetininga, 13A
S. Paulo

朝陽軒

理髮師　吉村武
聖市コンデ街

新式『ホワイト、ミシン』器販賣

ホワイト式ミシン器は最新流行使用輕便刺繍には好く適用せらる特に廉價の月賦拂の法便あり御申越あらば直ちに定價表持參御相談に參ります若し購買希望者を御世話下されし場合は賣買契約成立と同時に手數料を御拂ひ致し升

シンガミシン器も同樣の條件にて販賣致し升

Sasahara Kenji
Caixa Postal 344　Rua Quintino Bocayuva 76A

珈琲園カンナ園に從事すべきコロノ募集

一、當耕地は停車場最近にして二百五十アルケールスのカンナ園、二十三萬本の珈琲樹とを有する大耕地なり

二、珈琲園は一千本に付百ミルレース、樹は全部古木にして各家族の受持木數の三分の二を耕主より綿花を植ゑ其兩側に豆をまき三分の一はコロノよりミリユー二カレーラ又は一カレーラにて其兩側に豆をまく事

三、カンナ園は一アルケール二百五十ミルレース、畑は全部フオルマードにして一年に三回及四回の手入をなして終る者なり又株の切間には豆をまくを得る

四、コロノ暇作として一家族に付き一反歩以上の野菜と一家族の大小に應じ三、四、五反歩の米作として最適當なる整調したる土地を與ふ

五、コロノの受持仕事は珈琲、カンナ、ミロッソーラ家族の希望に應ず又各コロノ共五月より始め約五ケ月間カンナ採取に從事するを以て多大なる利益を得其切り代は一カレツト一ミル五百レース一人に付き三、四、四半カレツトを切るを得

六、入耕季節は十一月中は可なり又移轉に要したる費用等は耕主より支拂する事を保證す、猶詳細の條件に就ては左記の處へ御照會又は現場御視察の程を願ふ

鹿毛政次郎
Coloel Schmidt
Fazenda Vassoural
Estação Fco. Schmidt
Linha Mogyana

芳香美味

竹印醬油

一瓶一針七百レース

聖市モッカ街五二六番

大澤商店

竹細工部、醬油釀造部

木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候

R. da Mooca 526,
S. Paulo

4 de Outubro de 1918 No. 57

Noticias do Brazil

大正七年十月四日　金曜日　第五十七號

第二席　平内武藝鍛練の事

殊に平内は天性活潑で、且つ、一を聞いて十を知ると云ふ至つて怜悧な質でございますゆゑ、平左衛門も大きに喜悅び　平『我が子ながらも天晴なる生れだ、之ならば最早や武術を仕込んでも差支へない、自分の腕に覺えのある丈けは悉く讓り置かん』と、何にしろ大阪城内に於て百人勇士の取締りをいたし、薄田隼人兼相、塙團右衛門直之等と肩を並べて居りましたる真野平左衛門長親でございますから、目の置き處が違ひまする、一日一子平内を手許に招き、

平『これ平内、其の方も既に八歳と相成つた、親の口から云ふではないが、却々末頼母しき汝の氣象である依つて明日より此の父が獵に往く時には、必らず一緒に連れて往つて、山中に於いて武藝の手解きをいたして遣るから、其の心得で居るが宜からう』すると平内は大きに喜悅び、

平『阿父さん、何うぞ御願ひ申します、坊は劍術が習ひたうて堪りません』平左『オ、宜し宜し、充分教へて遣らう』と、呉れ〴〵も云ひ聞かせまして、偖て其の翌日より平左衛門は早朝より平内を引連れ山奥深く分け登り、秘密岳の裏山の蛇ケ淵と云ふ處へ出て參りまする、此の蛇ケ淵と申しまするは、左は斷巖絶壁でございまして、底迄は彼是二十間ばかりの急勾配になつてをります、右を見れば水の流れ轟々として三間ばかりの河幅で渦卷き立つた水面は、見るから身の毛もよだつ有様で、武藝の稽古には實に好い處で御座いまする平左衛門は夫れへ出で參り、鐵砲を傍らの木に立て掛け置き　平左『コレ平内、今更ら云うて聞かすでも、日頃から教へてある通り、武藝と云ふ者は、一眼、二早速、三膽、四力と云うてあるが、然し先最初は筋骨を堅めるが第一である、此の谷底を見よ、約り二十間餘りある、此の父が其の方を此の上より突き倒すから其の方は谷底へ轉げ落ちて、暫く間に掻き登つて來い、夫れを恐れる様な事では到底武術を鍛練する事は出來ない』と云ふ聲諸共平左衛門は谷底を見て驚き呆れてをる平内の襟頸を掴むが早いか、ヤッとばかりに突き落した、アッと云ふ間もあらばこそ平内は、轉々と落ちながら、或は樹の根巖角で頭を打ち足を掻き其の痛さといつたられ話しになりません然し氣象飽迄も我慢にして前申し上げたる通り不死身でございますから普通の人間ほどは痛くない、今しも平内は谷底に達しまするや、休む猶豫もあらばこそ、巖角を掴み木の根に攀ぢ、漸々の事に頂上へ登つて來ますと、父平左衛門は賞めるかと思ひの外　平左『ヤア、遅い〳〵、最初の一逼で左様弱るとは何事だ、夫れで武術が習へるかッ』と又も突き落す、這ひ上る、斯う云ふ事を五六遍もやられた日には堪つた者ぢや御座いません、何と云つても漸々八歳の平内でありますゆゑ最後には身體もヘト〳〵になり、頭は痛だらけ、手足は擦り創掻き創で、半死半生の體飛び附く事が出來る様に相成つて、水練と飛行の術と兩方を一時に鍛練する様な事はいたしません、父親平左衛門は之れを眺めて　平左『コレ平内其の方は甚だ情け知らずの父と思ふであらうが、矢張り汝を天晴なる人物といたしたい爲めである、話しにも聞き居るであらう、彼の獅子は百獸の王と云はれてをるが最初其の子を産み落すや、之れが強弱を試さんため産んだる子を悉く谷底へ蹴落し速かに駈け登つたる子を養育いたし怯弱にして登り能はざる子は皆嚙み殺して了ふとかや、無情には似たれども、斯様にして最愛の子を鍛へば成られぬ』と、懇々と慈悲を籠めたる父の言葉に、平内は子供ながらも夫れへ畏まり　平『ハイ阿父さん坊は些つとも苦しうはございません、何なんといたしますゆゑ、平左衛門は押し止め　平左『ウム、却々豪氣な其の言葉、然し一時に何遍もした處で役には立たん、又明日の事として今日は之れにて濟ます、父が戻つて來るまで此處にて休んで居れよ』と、云ひ聞かせまして平左衛門は商賣の方もいたさねばなりませぬゆゑ、鐵砲擔いで奥山差して分けゆきます、斯様ない居ります中に、段々と馴れて來まして、最早や何遍轉がり落ちても平氣で駈け登つて來る様になりました、其處で、今度は一方の河へ下りて參り　平左『此の河を向ふへ飛んで見よ彼の岸へ附く様にならねばならぬ、これを見ッ』と、平左衛門がやッと掛け、ヒラリ向ふの岸へ突立つた平内も負けぬ氣で遣りますが、初めは一間餘りで、ザンブと河の渦卷く中へ落ち込み　平『ア、、ブルブル悉く鍛練なし、就中卜傳流の劍術に到りては父親讓りの免許皆傳を受け古今の腕前と相成りましたが、然し年齢は十四歳なり殊に片田舎の事でございますゆゑ日夜怠らず武術に心掛け、軍學經書に眼を晒らしながら時々は父親平左衛門に從ひ、山奥深く分け入つて獵の手助けをいたして居りまする、然るに其の年も暮れまして明れば寛永五年春二月、平内が丁度十五歳の春を迎へました或日の事、久米村の名主六右衛門が平左衛門の宅へ出て參り　名『平左衛門殿はお宅かな』とズッと這入つて參りました、すると奥さんの君代殿は君『オ、お名主さま好うお出で下さいました、もし良人六右衛門様が見えられました』此の聲を聞いた平左衛門は丁度良助と平内と共に奥の間で何か物語つて居りましたが、夫れへ出て參り　平『オ、名主殿、マアお通りなされ何か御用で御座るかな』

婦人欄

美人となるには（上）

きよ子

夜の目も寢ずに、鍛練なしたる功は空しからず、僅か十三歳なれども、骨硬く肉緊りて、宛で鐵のやうな身體と相成つて、此の頃では父の平左衛門も平内には一歩を讓らねばならぬ様になつて來た、平左衛門夫婦は申すに及ばず、忠僕良助にいたるまで喜悅ぶ事一方ならず　平『彼れは天晴れ天下に其の名を知られ、後の世迄も豪い者と崇められるに相違ないが、之れでこそ、御父上の御遺言通り、眞野の家は萬々代である』と益々平内を寵愛いたして居りまする平内を馬劍槍は申すに及ばず、天狗飛切の術、合氣の術と、所謂武藝十八般は悉く鍛練なし、就中卜傳流の劍術に到りては父親讓りの免許皆傳を受けるとに依つて定るものであります、されば人の醜美は唯だ單に顔形で定るものではなく、寧ろ優しい氣質と、謙遜な行ひと、約やかな身姿とを爲すと爲さざるとに依つて定るものでありますから、私共が眞に美くしい人とならうと望むなら、第一心の修養が必要であります。

▲一體美と云ふものは見る人々の考へにもよりますが、心の内から外に煥發れた高尚な美こそは眞の美で十人が十人ながら此の眞美には動かされない者はないと思ひます、西洋の諺にも『心の麗はしき女は世の何よりも貴し』と云へるは其の美の極致を言ひ現はしたもので、實に味ひの深い言葉であります。（つゞく）

▲人は男でも女でも醜を嫌つて美きを好むは固有の性質でありますが、就中女は自分の美―顔や、樣子や髮や、身姿の他に優れた美くしさを望むもので、どうしたなら自分は他より美くしく成り得るかに腐心するのは特に女の有する性質であります。

▲其れならば私共女性が他に優れた美を發揮するには、どうしたなら可いのでありましやうか、之は十人十色で皆な持つて生れた美の程度が異つてゐますから、之を外面からは如何とも致し様がないのでありますが、併し各自銘々其の修養の仕方に依つては、醜も美と爲し、美も更に高尚く爲すことが可能るのであります。

▲誰でも多少は經驗のあることでありますが、日本で宿屋に泊つたり、料理店に行つて食事を認めたりするときに、小綺麗な姉さんがお給仕に出て參りますすると、誰でも綺麗だと云つて視線を其處に注ぎますものゝ、其の中何か拍子に粗末な言葉使いが出たり、無躾な行ひが現はれたりすると、其の綺麗さが何處へか飛んで、不快な且つ醜くい姉さんになつて仕舞うのであります。

▲之に反して餘り顔形の見よからざる女に出逢つても、其の人の爲すことが親切であり、言ふことが立派であり、行ひが作法に適つてゐるならば、忽ち尊敬の念が起つて、後光が指す様な美くしさを感ずることが可能るものであります、されば人の醜美は唯だ單に顔形で定るものではなく、寧ろ優しい氣質と、謙遜な行ひと、約やかな身姿とを爲すと爲さざるとに依つて定るものでありますから、私共が眞に美くしい人とならうと望むなら、第一心の修養が必要であります。

告示

今般當館に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を屆出相成たし

一、原籍、姓名
一、土地の所在地及最近停車場名
一、土地の面積及買入地價
一、地價全部拂込濟の土地券所有の有無
一、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日并に拂込濟金額

右告示す

在サンパウロ市
帝國總領事館
Caixa Postal 1167
S. PAULO.

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUSEN KAISHA :: OSAKA SHOSEN KAISHA

日本郵船會社定期船
●讃岐丸
九月六日長崎港發
十月廿七日サントス着豫定

大阪商船會社定期船
●ぱなま丸
十月中旬頃サントス着豫定

今回に限り乗客御斷り申候
御用の方は左記の中何れかへ御照會ありたし

伯剌西爾移民組合支部
(Caixa Postal 1082)
Rua Vergueiro 15. S. Paulo.

アンツーネス、ドス、サントス會社
(Caixa Postal 237)
Rua Liberio Badaro 93.S. Paulo.